

視察の報告

【武蔵野東第一・第二幼稚園 6月23日（水）】

<混合教育>

- 健常児と自閉症児の混合教育を行う中で、園児が自分も友達も好きになり、自分と色々な友達の違いを尊重できるようにしている。
- 集団の中に入れば自閉症児が育つというわけではないため、まず自閉症児の少人数クラスで安定を図った後、先生が誘導しながら自閉症児クラスと健常児クラスを行き来している。
- 自閉症児にとって、健常児クラスにいられるようになることが目標なのではなく、ありのままの自分を受け止められながらも、頑張ろうとする心情も大切にして、できるようになる喜びを味わい自己肯定感を得られるようにする。
- 多様な考え方がある中で、みんなが楽しく幸せになるかを考えることが重要。

<日々の活動>

- 生活、遊びの中で、先生がやることを示すのではなく、園児が自分たちで話し合いながらどのようにするかを決めている。
- 造形展に向けてみんなで作品を作る際も、何を作りたいのか、なんでそれを作りたいかを話し合いながら、みんなで折り合いをつけていっている。
- 行事の役割も自分たちで決めている。
- 先生は先の見通しを持ちながら、子どもたちが自ら取り組んでいく主体性をサポートしている。

【ふじの実保育園 6月25日（金）】

- モンテッソーリ教育を前面に出しているわけではない。職員が研修を受け、一部保育に取り入れている。
- 和太鼓を楽しむ中で、協調性、集中力を養っている。
- 地域との交流を大切に、園行事への地域の老人クラブの招待、老人ホームへの訪問、コミュニティーセンターでの文化祭に作品展示等を行っている。
- 異年齢の縦割りグループによる活動をしている（お店屋さんごっこなど）。
- やりたいこと、作りたいものについて、子どもたちの意見を聞いたり、子どもたちで話し合ったりして決めている。
- 療育施設に通っている園児もあり、療育計画書をもらうなどの連携を図っている。
- 30歳～40歳代の先生が多数で、園として比較的に保育経験の蓄積ができています。
- 保育士間の話し合いは午睡時等に行うしかなく、時間が限られている。
- 潜在的に持っている生きる力をいかに引き出すかが重要だと考えている。
- 自然の中で子どもが成長していく事が大切と考えているので、飼育当番や園庭の植物の成長を観察、果物等の収穫も楽しんでいる。

【境こども園 7月2日（金）】

- 1号認定と2号認定で入園のタイミングが異なるため、入園式は日を分けてそれぞれ行っている。
- 卒園式は1号認定も2号認定も同じ日に実施するが、2号認定の児童は卒園式後、3月末まで登園している。

- 異年齢交流は幼児（3、4、5歳児）と乳児（1、2歳児）に分かれて行うことが多い。
- そば打ち体験や退職した保育士を先生にしたお茶の会等のイベントを実施し、地域の方を園に招く機会をつくるようにしている。
- 1号認定の4歳児クラスは入園から夏ごろまでを目安に2号認定の児童と分かれて活動しているが、園での生活が安定してきたら合流して活動している。5歳児クラスになると最初から1号、2号認定で分けていない。
- 昼食までは1号認定、2号認定とも同じように過ごす。午後は1号認定のうち預かり保育の利用がない児童は降園する、利用がある児童は遊ぶ、2号認定の児童は午睡をする、というように、同じ園でも午後の過ごし方が3パターンある。
- 1号認定の預かり保育時間もクラス担任が保育にあたっている。